

らい 来ぶらり 34

カウンターの奥で

— 図書館の裏方 —

整理課長 種田 昭平

3億2千万円

のっけからお金の話ですみません。みなさんはこの金額を一体何だと思いませんか。図書館の人間がいうことだから、大体的見当はつくと思いますが……そうです。図書費です。これは昨年度の全学の図書購入費なのです。

「へエーこんなに!」、「こんなもんか」いろいろな感想があろうかと思えます。3億2千万円の図書費で約31,000冊の図書が購入されました。この内図書館の図書購入費は2千500万円、購入冊数は約5,000冊でした。

3万7千冊

購入図書と、寄贈された図書約6,000冊をあわせて、これだけの図書が受入整理のために図書館に運び込まれました。

受入とは図書を本学の財産として登録する手続きのことです。購入図書は支払い手続きが必要です。伝票を現物と照合し、予算残高のチェックをして、本部会計課に回します。

整理とは、簡単に言えば、著者名とか書名とか主題などから図書の検索ができるように目録データを作って、1冊ごとに主題分類をして書架上の配列位置を決めること。さらに、求める図書を的確に、早く探し出せるように目録カードを編成すること。言葉でいえば簡単ですが、これがなかなか手間と時間がかかります。

200円/min

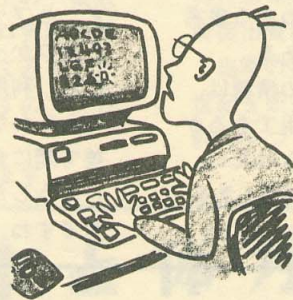
手間と時間を省けないかと、いろいろ工夫をこらして、行き着いたところはコンピュータ化でした。洋書整理係では、1987年度からUtlasという書誌ユーティリティ（本誌No.29参照）に参加し、整理の能率化を計りました。おかげで整理能力は大幅にアップ、滞貨解消への一歩を踏み出しました。しかしやっぱり、いいものはお金がかかります。オンラインで書誌データをコピーするために端末機でUtlasのデータベースと接続しただけで1分間に200円。

0円

一方、和書整理係は2年遅れてコンピュータ化に取り組みました。文部省の主導する学術情報センターという官製の書誌ユーティリティを利用して、利用料金はなんと0円。

こちらも、やっと軌道に乗ってきたので、今年度あたりから大幅な能率向上が期待できそうです。

整理のコンピュータ化は図書館業務のトータルシステムの一環です。図書のデータベースを構築することが、近い将来の貸出業務の機械化へつなげると信じて、整理係はひたすら端末機に向かってコマンドをたたき込んでいるのです。



図書館の舞台裏から Part 1

端末で検索しています

『ドストエフスキー全集 全23巻』（小沼文彦訳、築摩書房刊）がこの6月に完結した。第1巻の刊行が1962年、完結まで29年を要したことになる。訳者と出版社に敬礼！

既刊分の22冊は欠本なく納入されているであろうか。チェックカードを見ると、1冊欠けていた。確認のため目録室でカードをひく。入っていない。次に端末で検索。「該当する書誌が見つかりません」のメッセージ。出版社に第22回配本の出版年を問い合わせると、1989年という。もし購入してあれば、データの入力はすでに終わっていて検索できるはずである。安心して書店に注文できる。

ところで、『ドストエフスキー全集』の検索であるが、書名に長音があるので、カナ入力の状態とローマ字カナ変換の状態の両方で「一」を入力しないと、検索もれになる。学術情報システムに参加している大学が共同でデータベースを作成しているのであるが、データを作成した大学がカナで入力したか、ローマ字で入力したかによって、長音のある書名の検索結果が異なるということである。

発注中や納入されたばかりの本の情報は、画面に出てこない。少し待てば利用できるかもしれないので、館員まで申し出られたい。無ければ、購入希望を出すという方法もある。

（総務係 久保田 安子）

見えないきずな

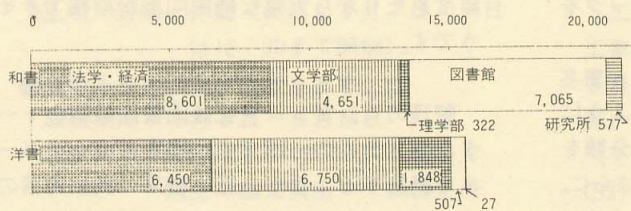
その1 「『ニューズウィーク 日本版』の最新号はまだ来ていませんか」開架室で利用者から受けた質問が、雑誌係への問い合わせとなってきた。さっき書店から受け取り、チェックカードに記入し、開架室行きの棚に置いたばかりだったので、そう即答した。

チェックカードには、到着した雑誌の巻号や受領年月日等が記入されるから、カードを見れば雑誌のカレントな所蔵情報を伝えることができる。「東京大学の『美術史論叢』は目録カードに「詳細は係員へ」とありますが」の問いにも、カードによって、「1-6号まで哲学研究室にあります」と回答した。

その2 4月に「『法学セミナー』の昨年8月号を見たいのですが」と開架室から2階カウンターへ回ってきた利用者尋ねられて、係員が雑誌係の所へやって来た。この時、雑誌係では昨年1年間開架室で利用された雑誌の製本準備の真っ最中だった。確か、この準備中の雑誌の中に『法学セミナー』があったはず、とブックトラックにのった雑誌を見回すと見つかった。製本業者に渡してしまっていたら、利用者には納品までの約1ヶ月間待ってもらわなければならなかったが、タッチの差で間に合った。

こうした情報を直接お伝えできないのが残念ですね。
（雑誌係 工藤 晶子）

平成2年度 図書増加冊数



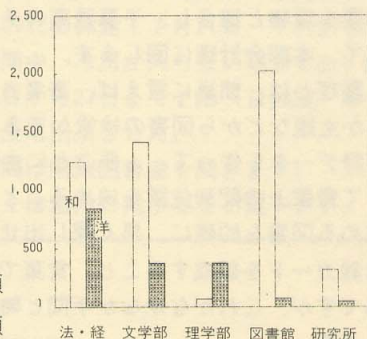
和書合計 21,216 冊

洋書合計 15,591 冊

和雑誌合計 5,083 種類

洋雑誌合計 1,720 種類

平成2年度 雑誌受入種類数



皆さんはマイクロ資料を利用したことがありますか？マイクロ資料とは情報やデータを光学的に縮小して記録した資料をさします。文書や文献などのように紙に記録されたものをマイクロカメラにより撮影したロール状のフィルムをマイクロフィルムと呼び、A 6 サイズのシート状のフィルムをマイクロフィッシュと呼んでいます。

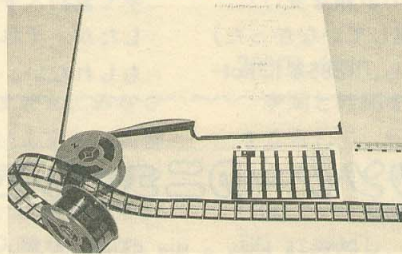
新聞のように保存が困難な資料（膨大な量と低品質の紙）や古文書のように貴重且つ稀少な文献の保存および普及に大いに貢献しています。マイクロリーダープリンターという機械にかけて画面を見ていくわけですから、本のようにいつでもどこ

でも利用できるというわけにはいきませんが、コピーも簡単にとれますので、使用してみると意外に便利なものだと思えるでしょう。

法経図書室目録室で分類カードの一番最後の箱のカードを引くとマイクロ資料の所蔵がわかりますので、一度調べてみてください。またリストも作成していますので、カウンターでお尋ね下さい。

所蔵資料の中から一つ紹介します。

法経図書室所蔵マイクロ資料 英国下院議会文書



英国下院議会文書

The House of Commons Parliamentary Papers. 1801—1977

- ① 1801—1900 マイクロフィッシュ
(請求記号 M328.42-G7985) 46, 197枚
- ② 1901—1921 マイクロフィッシュ
(請求記号 M328.42-G7985) 17, 944枚
- ③ 1922—1977 マイクロフィルム
(請求記号 M328.42-G7982) 1, 527リール

①は現存する19世紀の英国下院議会文書8万点、420万頁以上のものを完全に収録した英国図書館協会推薦のオフィシャル版です。検索用として冊子体索引（IUP復刻版）全8巻があります。

(請求記号 328.42-lr 4x)

③は①・②より先にアメ

リカの出版社でマイクロフィルムの形で発行されました。全2巻の冊子体索引があります。(請求記号 015-G7982)

Parliamentary Papersは英国下院に提出された法律案・各種調査委員会の報告書・政府提出資料から成る文書集の総称です。

当時の英国の国際的地位からみて19・20世紀を研究対象とする方々にとって重要資料の一つです。

(法経図書室 山寺路子)

本と体力

図書館2階の廊下で、突然声をかけられた。「助手になる時、体力テストがあったでしょう」館員の真下さんである。

なるほど、体力なくして本の仕事は出来ない。文学部棟五階から、時折エレベーターのドアに挟まれつつ、ブックトラックを転がして玄関先のアスファルト面に降りる。史料館横の道はかなりの片斜面。すーっと左へ寄っていくブックトラックを慌てて取り押え、坂を上り、図書館の二重ドアをかいくぐって、左手奥のダムウェーダの重い二枚扉を開き、

本を押しこんで二階へ駆けあがる。再び二枚扉をヨイショと開け、本を総務課へと運び、受入用ブックトラックに移しかえる……と、そこへ冒頭の声。思わずうなずいてしまう。

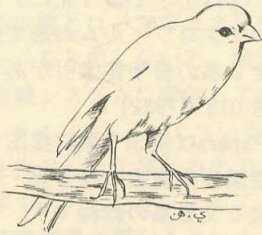
真下さん御自身、体力は相当なものらしい。職員ソフトボールチームの名捕手。いつか右手に巻かれた包帯が目についた。聞けば、投手のボールを素手で捕球して二盗を防いだ結果の突き指とのこと。ユニホームが素敵なチームだそう。一度その勇姿を拝見したいものと思っている。(仏文科助手 古谷佐世子)

参考室あれこれ

『週刊読書人』を読んでいたら「千葉大の先生が長い間探していた、1700年代の物理学事典が東大図書館にあるのがわかり、国外に複写依頼をしていたので取り消さなければならぬ。また以前、ドイツまで行って入手した文献が広島大学にあった……」の記事が目に入った。参考室でもつい最近、青山学院大学図書館から、原本はスペイン語で英訳もあるがフランス語のものを探していると、Parisで1725年と1667年に出版された文献2点の所蔵調査の依頼を受けた。(あいにく学習院では所蔵していなかった) また、本学の大学院生から、1685年にRot-

terdamで出版された文献を探してほしい旨の依頼を受けた。これは複製本が1967年と1971年に出ていて、大阪大学、京都大学で所蔵しているのがわかったが、いずれも貸出しは不可とのことであった。近隣の大学に所蔵調査の依頼をしたら、上智大学神学部で1680年出版のものmicroprint copyを持っていることがわかった。全国の図書館の目録、しかも古い文献を網羅した目録があれば良いが、実現はなかなか難しい。もし、千葉大の先生も自館の参考室を利用し、相互協力で調べれば、もう少し簡単に、早く資料入手が出来たかしらと思ったりもしたが、それは済んだ上での事だったのかも知れない。(参考係 甲斐静子)

カウンターのニューフェイス



“Come back a Big Salmon!”というフレーズを知っているかい？ 10年ぶりに図書館2階のメイン・カウンターに座ってみれば、ゲニゲニ様変わりしていたことか。浦島太郎か、はたまた「マシモイサム」かといった案配である。人は、私に向かって次のように述べるかも知れない。「実に君にふさわしいポジションだよ」と。しかし、「それを決めるのは、本当はあなたではなく〈利用者〉ですよ」といいたい。すると意地悪くこういふかも知れない。「利用者という利用者はいない！」と。もうこの辺でこの話は止めておきます。

「歌を忘れたカナリヤ」という童謡を聞いたことがありますか？あるいは、レモンカナリヤのセイソな顔立ちを知っていますか？実は、この私があのセイソで、利用者を忘れていない図書館員なんです！それが、帰ってきたのです。また再び運用課に。(運用係 眞下 勇)

夏休みのお知らせ 工事をしながら開館します

- 7月29日から9月14日まで次の通り開きます。
平日：8：50～16：30
土曜・日曜：休館（ただし9月7日・14日は12：00まで開館）
- 夏休み長期貸出が始まります。
取扱期間：7月8日～9月14日
貸出冊数：学部学生……………5冊まで
院生・論文貸出……………10冊まで

- 夏休みに、図書館は空調工事を行います。
工事期間：7月21日～8月31日
工事のため休館：7月21日～7月27日
工事期間中、冷房が入らない場合もあります。
8月19日から27日まで2階（目録室・参考室等）は使用出来ません。
（その間は開架図書室を開きます）
○詳しくは館内の掲示等をご覧ください。

来ぶらり No.34 1991年7月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：広瀬淳子 石田京子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221